

最先端医療イノベーションセンター 特別セミナー

日 時：2019年12月23日（月） 18:00～19:30

場 所：大阪大学大学院医学系研究科附属

最先端医療イノベーションセンター棟 1F マルチメディアホール

セミナー要旨：

特別講演Ⅰでは、金田安史 理事・副学長により、本学が目指している、安定的かつ持続的な「知」「人材」「資金」の好循環システムの構築についてご講演頂きます。

特別講演Ⅱでは、玉井克人 再生誘導医学寄附講座教授により、基礎研究成果の社会実装を目的として設立され、東証マザーズに上場した阪大発バイオベンチャー「(株)ステムリム」との共創による、研究開発エコシステムの実践についてご講演頂きます。

18:00- 開会のあいさつ：金井 好克 最先端医療イノベーションセンター長

特別講演：

18:10- 座長：金井 好克 最先端医療イノベーションセンター長

I 大阪大学における研究開発エコシステムの取り組み

金田 安史 大阪大学理事・副学長

18:50- 座長：金田 安史 大阪大学理事・副学長

II 大阪大学発バイオベンチャーとの共創による再生誘導医薬開発

玉井 克人 再生誘導医学寄附講座 寄附講座教授

情報交換会（セミナー終了後 於 CoMIT 1F メディアラウンジ）

◇最先端医療イノベーションセンター(CoMIT) 研究開発プロジェクトについて (CoMIT HP より抜粋)

<http://www.comit.med.osaka-u.ac.jp/>

【A-19 プロジェクト】

講座：幹細胞遺伝子治療学共同研究講座・遺伝子治療学
共同研究企業：(株)ステムリム

体内再生誘導のための幹細胞遺伝子治療技術開発

幹細胞遺伝子治療学共同研究講座では、これまで大阪大学と株式会社ステムリムが進めてきた「再生誘導医薬」開発研究を基盤として、体内再生誘導治療を遺伝性難病の根治的治療へと発展させるために、幹細胞を標的とした遺伝子治療技術の開発を目指します。取り出した自己幹細胞に遺伝子導入してから再度戻す ex vivo 遺伝子治療を実現することによって、表皮水疱症、血友病、代謝異常症など、現在根治的治療法の無い遺伝性難病に苦しむ患者さんに低侵襲かつ高効率な遺伝子治療を提供することを目的として研究開発を進めます。

【B-6 プロジェクト】

講座：再生誘導医学寄附講座
共同研究企業：(株)ステムリム

損傷組織への骨髄間葉系幹細胞集積メカニズムに基づいた抗炎症・再生誘導医薬開発

再生誘導医学寄附講座の中心的な研究開発課題は、「骨髄間葉系幹細胞動員因子を用いた末梢循環不全に伴う難治性皮膚潰瘍治療薬開発」です。具体的には、研究開発責任者が見出した、生体内タンパク HMGB1 の持つ骨髄間葉系幹細胞血中動員活性を基に、HMGB1 創薬の非臨床試験（安全性試験）、臨床試験（医師主導治験）を実施し、阪大発・世界初の再生誘導医薬を開発します。

更に、骨髄間葉系幹細胞の骨髄内ニッチにおける可塑性維持メカニズム、血中動員メカニズム、損傷組織特異的集積メカニズム、組織特異的分化誘導メカニズムをそれぞれ解明し、新たな医薬品開発につなげます。